

兵庫県の人口の動き

平成19年1月～12月

平成20年3月

兵庫県県民政策部政策局統計課

この報告書は、「市町別毎月人口推計調査」をもとに平成19年中の兵庫県下の人口の動きをまとめたものです。

利用上の注意

1 「推計人口」は国勢調査人口を基に算出しているため、当該年の人口移動数を加減しても次年の人口に一致しない年があります。

2 平成11年及び12年の人口は「推定人口」です。

「推計人口」・・・国勢調査を基礎に、住民基本台帳と外国人登録の移動数を加減した人口

「推定人口」・・・平成10年10月1日実施の「被災地人口実態調査」の結果数値を基礎に、住民基本台帳と外国人登録の移動数を加減した人口

※ 「被災地人口実態調査」：平成10年10月1日に実施した総務庁「住宅・土地統計調査」の調査票から被災地10市10町の世帯人員を転記集計し、実態人口の把握を行ったもの

目 次

1	人口の動き	1
2	人口増減の動き	2
3	出生数及び死亡数の動き	2
4	地域別人口の増減	3
5	地域別人口の構成	4
6	市町別人口	5
7	月別人口の動き	7

統計表（別ファイル エクセル）

第1表	年次別自然・社会増減表	8
第2表	市町別自然・社会増減数及び増減率	9
第3表	市町別自然・社会増減表	10

1 人口の動き

平成20年1月1日現在の兵庫県推計人口は559万6,826人である。

昭和22年から300万人台で推移してきた人口は、昭和36年に400万人を、昭和51年には500万人を超え、平成7年1月には552万人に達したが、阪神・淡路大震災直後の平成7年国勢調査では、540万人に落ち込んだ(表1、図1参照)。

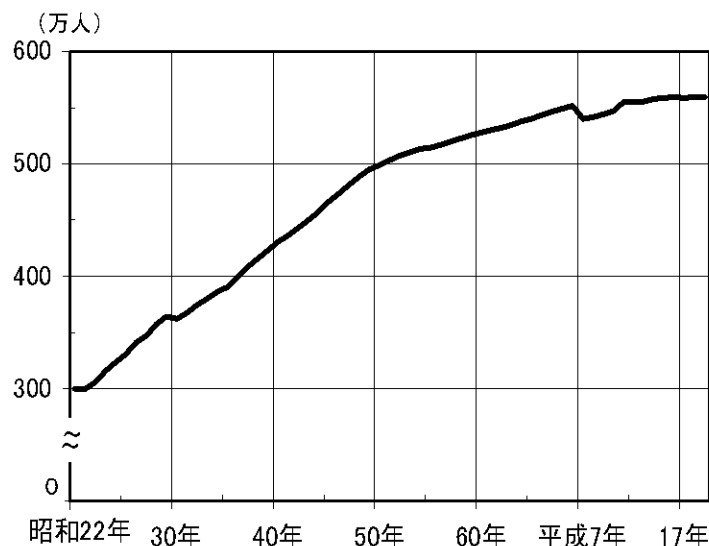
平成20年1月1日現在の本県人口は全国第8位、また全国の人口約1億2,777万人(総務省「人口推計月報(H20.1.1 現在概算値)」)に占める割合は4.38%である(表2、図2参照)。

表1 兵庫県の人口の推移

(国勢調査人口)

年次	人口(人)
昭和22年	3,057,444
25年	3,309,935
30年	3,620,947
35年	3,906,487
40年	4,309,944
45年	4,667,928
50年	4,992,140
55年	5,144,892
60年	5,278,050
平成2年	5,405,040
7年	5,401,877
12年	5,550,574
17年	5,590,601
20年	5,596,826

図1 兵庫県の人口の推移

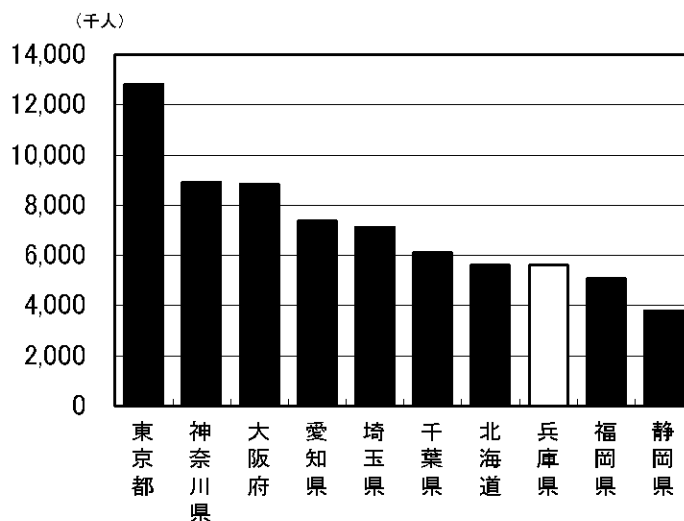


平成20年1月1日現在推計人口

表2 主な都道府県の人口

順位	都道府県名	人口(人)
1	東京都	12,805,039
2	神奈川県	8,910,256
3	大阪府	8,832,161
4	愛知県	7,363,622
5	埼玉県	7,111,353
6	千葉県	6,116,328
7	北海道	5,598,776
8	兵庫県	5,596,826
9	福岡県	5,062,049
10	静岡県	3,798,818

図2 主な都道府県の人口



(各都道府県人口は平成20年1月1日現在推計人口による。北海道は平成19年12月末日現在住民基本台帳人口による。)

2 人口増減の動き

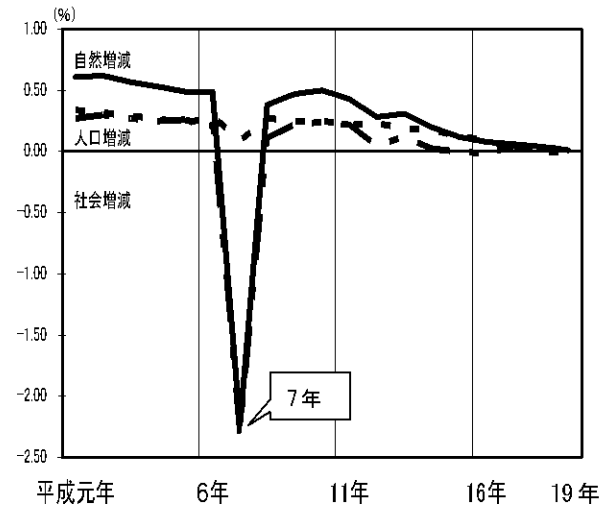
平成19年の人口の動きを見ると286人増加し、その内訳は自然増減(出生－死亡)で815人増加、社会増減で529人減少した。

人口増減率は前年より0.03ポイント下降して0.01%の増加、自然増減率は前年より0.03ポイント下降して0.01%の増加、社会増減率は前年より0.01ポイント下降して0.01%の減少となった(表3、図3参照)。

表3 人口増減の推移

区分 年次	推計(確定)人口 (各年1月1日)	増減数			増減率		
		人口増減	自然増減	社会増減	人口増減	自然増減	社会増減
人	人	人	人	人	%	%	%
平成元年	5,356,278	32,824	18,095	14,729	0.61	0.34	0.27
2年	5,389,102	33,505	17,381	16,124	0.62	0.32	0.30
3年	5,413,175	30,614	15,859	14,755	0.57	0.29	0.27
4年	5,443,739	28,753	14,886	13,867	0.53	0.27	0.25
5年	5,472,492	26,987	12,824	14,163	0.49	0.23	0.26
6年	5,499,479	27,210	15,772	11,438	0.49	0.29	0.21
7年	5,526,689	-123,308	5,171	-128,479	-2.23	0.09	-2.33
8年	5,403,381	20,528	14,349	6,179	0.38	0.27	0.11
9年	5,423,909	25,473	13,535	11,938	0.47	0.25	0.22
10年	5,449,382	26,983	13,853	13,130	0.50	0.25	0.24
11年	5,531,269	24,047	12,053	11,994	0.43	0.22	0.22
12年	5,555,316	15,370	12,852	2,518	0.28	0.23	0.05
13年	5,555,809	17,272	10,561	6,711	0.31	0.19	0.12
14年	5,572,913	11,419	10,231	1,188	0.20	0.18	0.02
15年	5,584,332	6,748	6,715	33	0.12	0.12	0.00
16年	5,591,080	4,384	5,397	-1,013	0.08	0.10	-0.02
17年	5,595,464	3,346	689	2,657	0.06	0.01	0.05
18年	5,593,979	2,341	2,287	54	0.04	0.04	0.00
19年	5,596,540	286	815	-529	0.01	0.01	-0.01
20年	5,596,826						

図3 人口増減率の推移



注) 推計人口は国勢調査の結果を基礎として算出しているため、各年当該の人口増減数を加えても次年の人口に一致しない年がある。

平成11年、12年は推定人口、増減率は各年1月1日現在推計(推定)人口を基礎に用いた。

3 出生数及び死亡数の動き

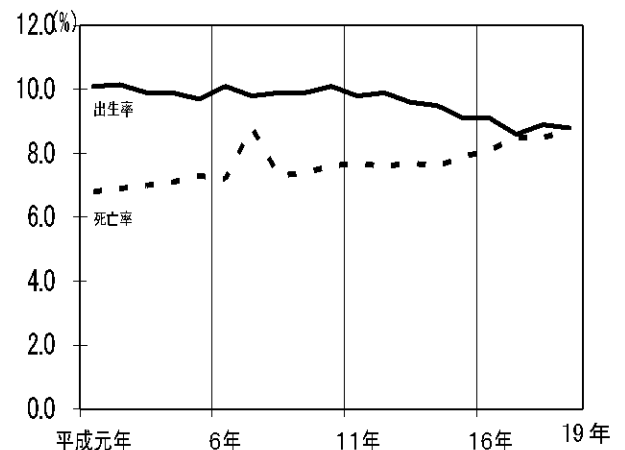
平成19年の出生者数は4万9,289人で、うち男2万5,493人、女2万3,796人となった。出生率(人口千人当たり)は8.8%で、前年より0.1ポイント下降した。

一方、死亡者数は4万8,474人で、うち男2万5,760人、女2万2,714人となった。死亡率(人口千人当たり)は8.7%で、前年より0.2ポイント上昇した(表4、図4参照)。

表4 年次別出生率及び死亡率の推移

区分 年次	出生				死亡			
	総数	男	女	出生率	総数	男	女	死亡率
人	人	人	人	%	人	人	人	%
平成元年	54,466	28,296	26,170	10.1	36,371	19,593	16,778	6.8
2年	54,743	27,981	26,762	10.1	37,362	20,019	17,343	6.9
3年	54,013	27,840	26,173	9.9	38,154	20,488	17,666	7.0
4年	53,939	27,758	26,181	9.9	39,053	21,065	17,988	7.1
5年	53,021	27,190	25,831	9.7	40,197	21,712	18,485	7.3
6年	55,689	28,599	27,060	10.1	39,887	21,445	18,442	7.2
7年	52,755	27,061	25,694	9.8	47,564	24,650	22,914	8.8
8年	53,813	27,438	26,375	9.9	39,464	21,243	18,221	7.3
9年	53,892	27,608	26,284	9.9	40,357	21,747	18,610	7.4
10年	55,403	28,368	27,035	10.1	41,550	22,632	18,918	7.6
11年	54,556	28,000	26,556	9.8	42,503	22,953	19,550	7.7
12年	55,197	28,164	27,033	9.9	42,345	22,843	19,502	7.6
13年	53,324	27,375	25,949	9.6	42,763	23,060	19,703	7.7
14年	52,745	26,998	25,747	9.5	42,514	23,088	19,426	7.6
15年	51,079	26,290	24,789	9.1	44,364	23,835	20,529	7.9
16年	50,625	25,962	24,663	9.1	45,228	24,374	20,854	8.1
17年	47,951	24,540	23,411	8.6	47,262	25,294	21,968	8.5
18年	49,573	25,496	24,077	8.9	47,286	25,142	22,144	8.5
19年	49,289	25,493	23,796	8.8	48,474	25,760	22,714	8.7

図4 年次別出生率及び死亡率の推移



注) 出生率及び死亡率は、各年10月1日現在の推計(推定)人口又は国勢調査による人口の基礎を用いた。

4 地域別人口の増減

平成19年中の人口増減数を地域別に見ると、増加したのは阪神南地域をトップに、阪神北地域、東播磨地域、神戸地域の順で4地域、減少したのは但馬地域、西播磨地域、淡路地域、北播磨地域、丹波地域、中播磨地域の順で6地域となった。

人口増減率では、増加したのは阪神北地域をトップに、阪神南地域、東播磨地域、神戸地域の順で、減少したのは但馬地域、淡路地域、丹波地域、西播磨地域、北播磨地域、中播磨地域の順となった。

神戸地域は、西区で0.85%増加したほか、中央区、灘区、北区でも増加したが、須磨区で0.61%減少したほか、長田区、垂水区、東灘区、兵庫区でも減少し、地域全体としては前年よりも0.14ポイント下降したものの、0.06%の増加となった。

阪神南地域は、尼崎市で0.22%減少したが、西宮市で0.89%、芦屋市で0.85%増加し、地域全体としては前年よりも0.24ポイント下降したものの、0.39%の増加となった。

阪神北地域は、猪名川町で2.10%増加し、県下市区町で増加率がトップとなったほか、伊丹市、宝塚市でも増加したが、川西市、三田市で減少した。地域全体としては前年よりも0.26ポイント上昇し、0.47%の増加となった。

東播磨地域は、明石市で0.33%増加し、加古川市、播磨町でも増加したが、高砂市、稲美町で減少した。地域全体としては前年よりも0.18ポイント上昇し、0.14%の増加に転じた。

北播磨地域は加東市で0.24%増加し、小野市では増減がなかった。その他の市町で人口減があったが、地域全体としては前年よりも0.11ポイント上昇したものの、0.53%の減少となった。

中播磨地域は、すべての市町で人口が減少し、地域全体としては前年よりも0.02ポイント下降し、0.09%の減少となった。

西播磨地域は、太子町で0.66%増加したものの、その他の市町で人口が減少した。地域全体としては前年よりも0.23ポイント下降し、0.64%の減少となった。

但馬地域はすべての市町で人口が減少し、地域全体としては前年よりも0.25ポイント下降し、県下地域別で増減率が最も大きい1.25%の減少となった。

丹波地域でも丹波市、篠山市ともに人口が減少したものの、地域全体としては前年よりも0.04ポイント上昇し、0.98%の減少となった。

淡路地域でも、すべての市で人口が減少したものの、地域全体としては前年よりも0.05ポイント上昇し、1.14%の減少となった(表5参照)。

第5表 地域別人口の増減(平成19年)

地域	増 減 数			増 減 率		
	人口増減 人	自然増減 人	社会増減 人	人口増減 %	自然増減 %	社会増減 %
県 計	286	815	-529	0.01	0.01	-0.01
神 戸	980	-181	1,161	0.06	-0.01	0.08
阪 神 南	3,978	1,912	2,066	0.39	0.19	0.20
阪 神 北	3,337	1,128	2,209	0.47	0.16	0.31
東 播 磨	1,026	940	86	0.14	0.13	0.01
北 播 磨	-1,536	-471	-1,065	-0.53	-0.16	-0.37
中 播 磨	-527	471	-998	-0.09	0.08	-0.17
西 播 磨	-1,773	-846	-927	-0.64	-0.30	-0.33
但 馬	-2,373	-837	-1,536	-1.25	-0.44	-0.81
丹 波	-1,121	-504	-617	-0.98	-0.44	-0.54
淡 路	-1,705	-797	-908	-1.14	-0.53	-0.61

5 地域別人口の構成

地域別の人口構成比は、神戸地域が27.4%で最も高く、以下、阪神南地域の18.4%、東播磨地域の12.9%、阪神北地域の12.8%と続いている(表6、図5・6参照)。

表6 地域別人口(平成20年1月1日現在)

地 域	人口(人)
県 計	5,596,826
神 戸	1,530,847
阪 神 南	1,031,086
阪 神 北	719,090
東 播 磨	719,175
北 播 磨	288,200
中 播 磨	583,310
西 播 磨	277,259
但 馬	186,732
丹 波	113,578
淡 路	147,549

図5 地域別人口構成比(平成20年1月1日現在)

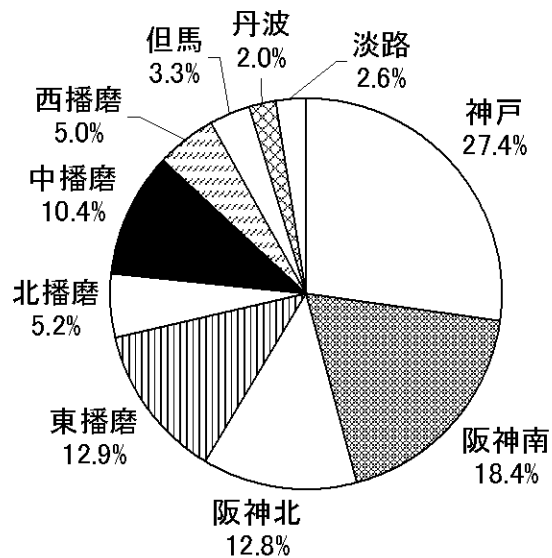
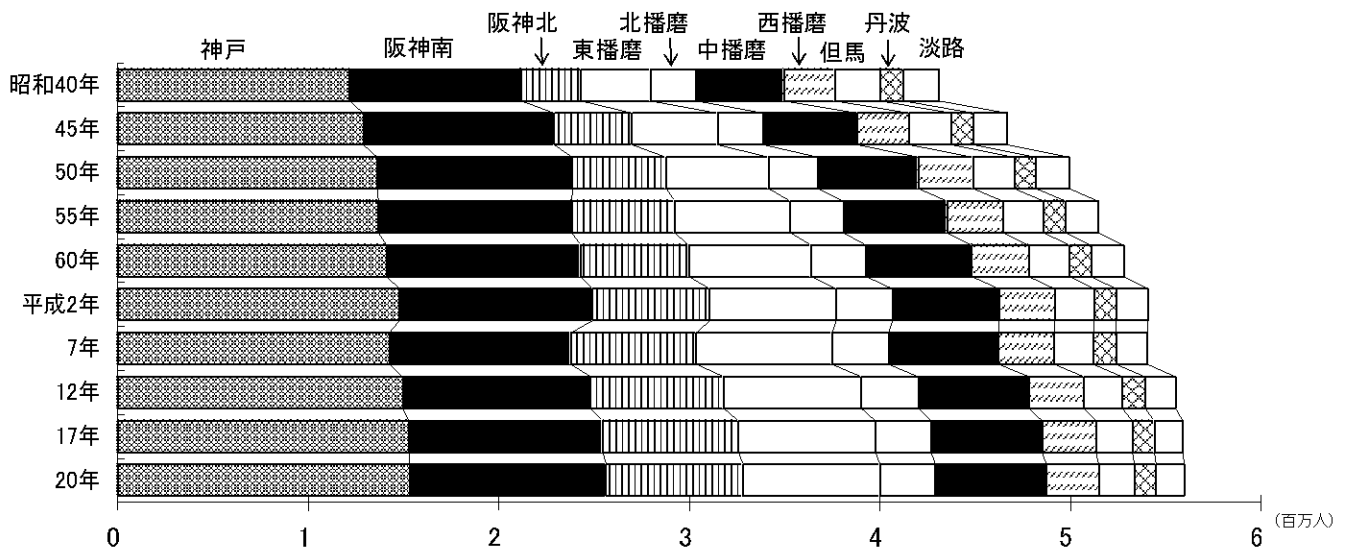


図6 地域別人口構成比の推移



(各年国勢調査人口による。平成20年は1月1日現在推計人口による。)

《参 考》地域区分

神戸地域	神戸市
阪神南地域	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北地域	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
東播磨地域	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
北播磨地域	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
中播磨地域	姫路市、市川町、福崎町、神河町
西播磨地域	相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、太子町、上郡町、佐用町
但馬地域	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
丹波地域	篠山市、丹波市
淡路地域	洲本市、南あわじ市、淡路市

6 市町別人口

平成20年1月1日現在の人口を市町別に見ると、神戸市が153万847人と最も多く、県全体の27.4%を占めている。次いで、姫路市53万6,170人、西宮市47万7,056人、尼崎市46万1,202人と続いている。郡部では、播磨町が3万3,605人と最も多く、次いで、太子町3万3,099人、稲美町3万1,579人と続いている。

また、人口が少ないのは、神河町1万2,679人、市川町1万3,755人、新温泉町1万6,862人の順になっている。市部では、養父市2万7,428人、相生市3万1,973人、朝来市3万4,084人の順になっている。

この一年間の人口の動きを見ると、県内41市町のうち人口が増加したのは11市町、増減なしが1市、減少したのは29市町である。

人口増減率をみると、市部では、4年連続で西宮市が最も高く、芦屋市、伊丹市など8市で増加し、養父市、洲本市など20市で減少した。郡部では、猪名川町、太子町、播磨町の3町で増加し、新温泉町、佐用町など9町で減少した。

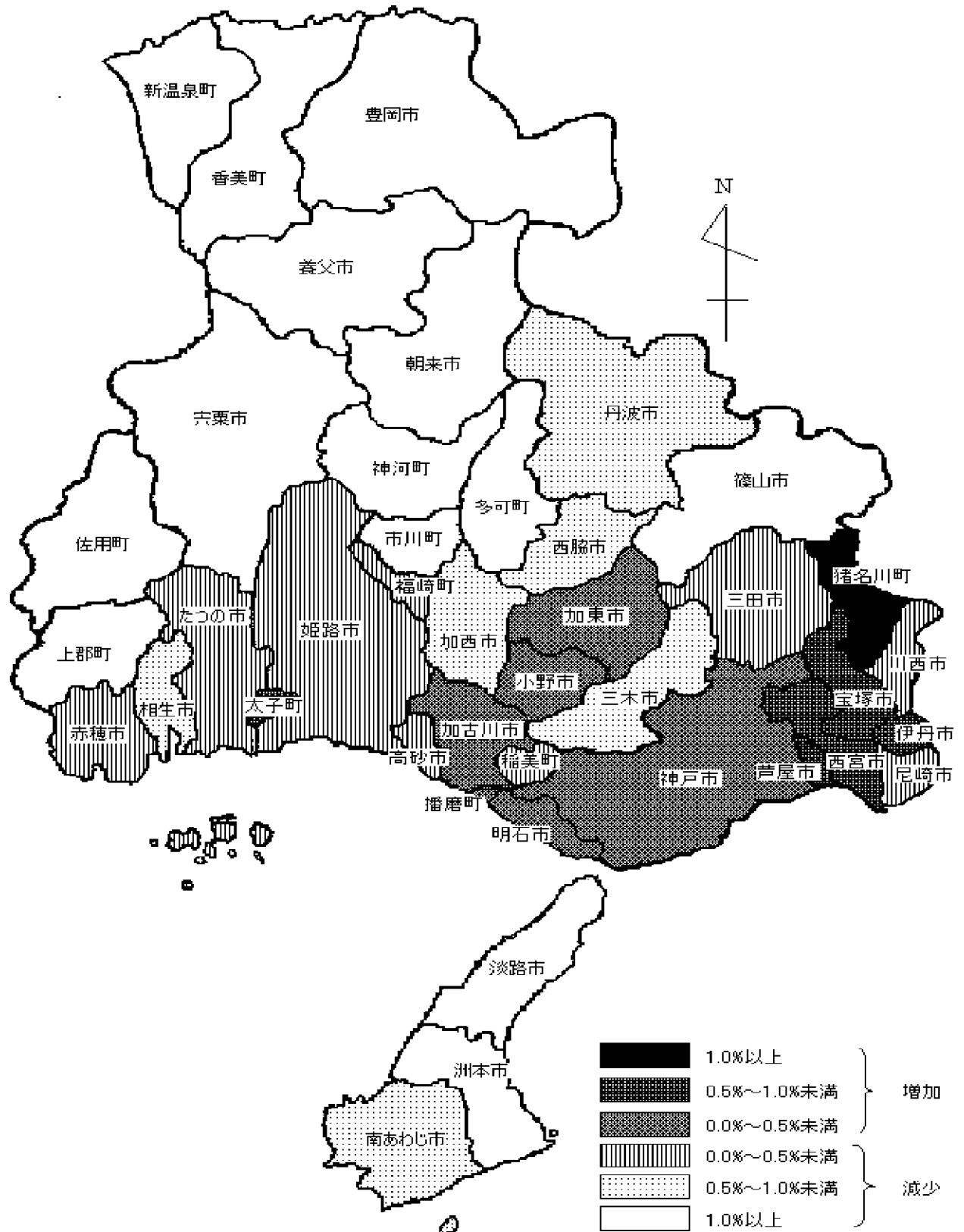
理由別に増減率を見ると、自然増減は、市部では西宮市、伊丹市など12市で増加し、養父市、淡路市など17市で減少した。郡部では太子町、猪名川町など3町で増加し、佐用町、神河町など9町で減少した。社会増減は、市部では芦屋市、西宮市など8市で増加し、洲本市、朝来市など21市で減少した。郡部では猪名川町、太子町の2町で増加し、新温泉町、市川町など10町で減少した(表7、図7参照)。

表7 人口増減率の高い市町(平成19年)

〈市部〉		人口増減		自然増減		社会増減	
区分	順位	市名	率(%)	市名	率(%)	市名	率(%)
増加	1	西宮市	0.89	西宮市	0.36	芦屋市	0.70
	2	芦屋市	0.85	伊丹市	0.34	西宮市	0.52
	3	伊丹市	0.78	宝塚市	0.16	伊丹市・宝塚市	0.44
減少	1	養父市	-1.45	養父市	-0.71	洲本市	-0.88
	2	洲本市	-1.41	淡路市	-0.63	朝来市	-0.87
	3	朝来市	-1.27	洲本市	-0.53	西脇市	-0.77

〈郡部〉		人口増減		自然増減		社会増減	
区分	順位	町名	率(%)	町名	率(%)	町名	率(%)
増加	1	猪名川町	2.10	太子町	0.54	猪名川町	1.81
	2	太子町	0.66	猪名川町	0.29	太子町	0.11
	3	播磨町	0.10	播磨町	0.25	—	—
減少	1	新温泉町	-1.82	佐用町	-0.96	新温泉町	-1.34
	2	佐用町	-1.57	神河町	-0.66	市川町	-0.92
	3	市川町	-1.52	市川町	-0.60	神河町	-0.82

図7 市町別人口増減率(平成19年)



7 月別人口の動き

平成19年中の月別人口増減状況を見ると、1月、2月、3月、6月、9月に減少が見られるが、他の月は増加している。

理由別に見ると、自然増減は1月、2月、3月、4月、11月、12月に減少しているが、他の月は増加している。社会増減は例年同様3月に大きく減少し、翌4月に大きく増加するパターンとなっている(表8、図8参照)。

図8 月別人口の増減数(平成19年)

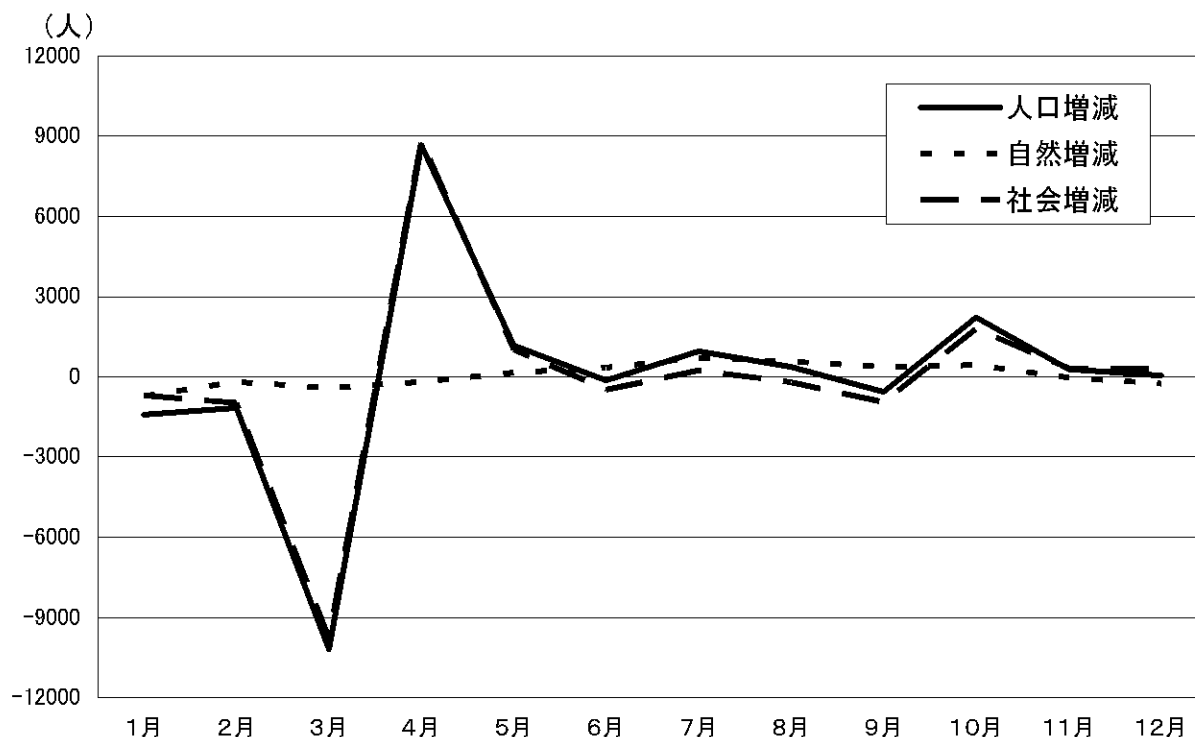


表8 月別人口の増減数(平成19年)

	人口増減	自然増減	社会増減
	人	人	人
1月	-1,408	-721	-687
2月	-1,165	-193	-972
3月	-10,186	-419	-9,767
4月	8,666	-181	8,847
5月	1,175	164	1,011
6月	-138	343	-481
7月	959	713	246
8月	370	576	-206
9月	-564	381	-945
10月	2,229	433	1,796
11月	295	-24	319
12月	53	-257	310